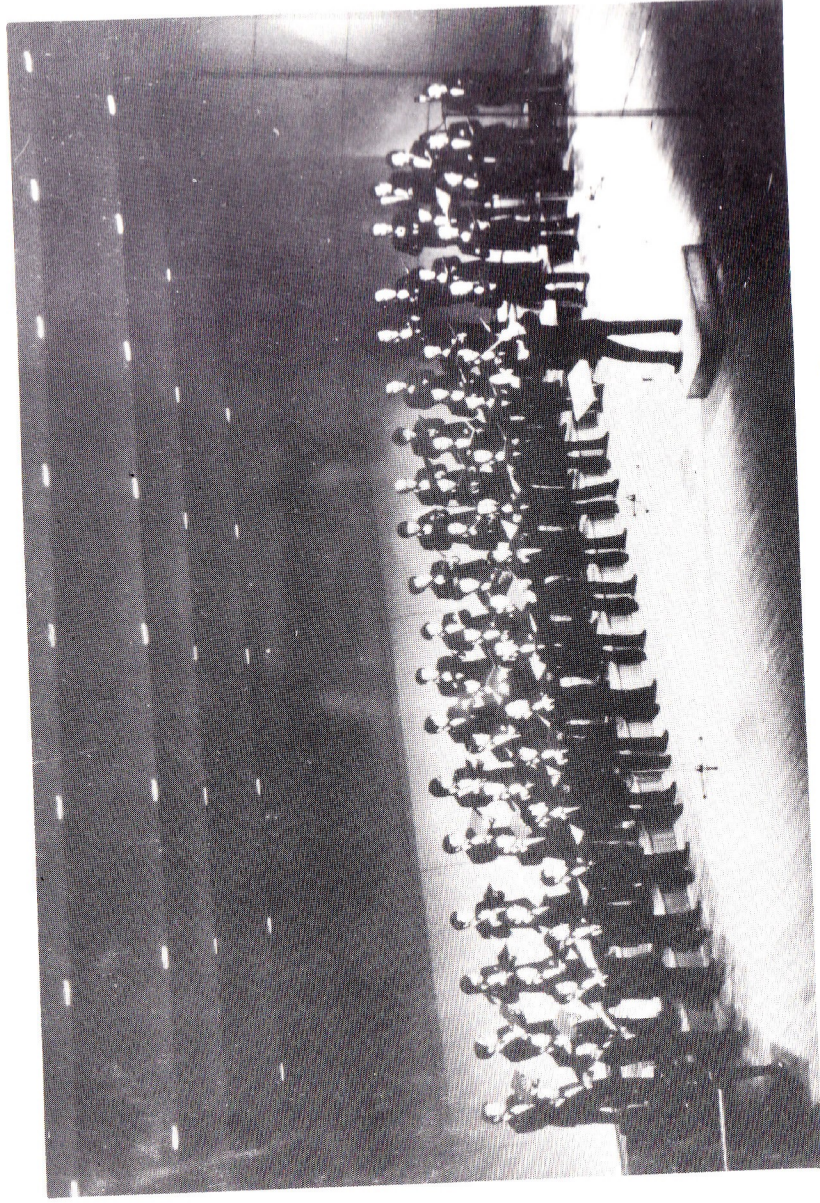


DAWARA
DANSEL

7

Regular Concert



小田原男声合唱団

第7回定期演奏会

●とき 1978年7月8日(土)PM6.30
●ところ 小田原市民会館大ホール

ごあいさつ

ようこそお出で下さいました。

みなさまの中には昨年の定演にお出でいただいた方も多いいと思います。あれから1年間、音楽性の向上を目指し活動を続けて参りました。

結団7年目を迎え、運営面では合唱団としての輪郭が固まっております。日々技術の向上を目指しているところですが、申すまでもなく全メンバーが仕事を持っており、その余った時間の枠の中で合唱活動を行うという事で、時間を如何に有効に使うかで悩んでおります。努力すればいくらでも音楽的可能性を拡げて下さる福永先生の前で出来れば無限に時間を欲しいと言っているのがホンネですが、今は、いかに密度濃く練習するかを第一課題としております。

今や合唱と言えれば混声合唱が主流で、どういう訳か社会人の男声合唱団は全国的にもその数が多いが、ありませんが、その中において、「大地から生れて来るような力強いアンサンブル」「心をしびれさせるようなソツト・ヴォーチェ」は男声合唱ならではの、と信じ、歌と酒と?を愛しながら頑張っております。

本日のステージには、小田原の生んだ素晴らしいソプラノ歌手島田祐子さんをお招きしており、その美しい容姿と高い歌唱テクニクに、小田原男声も何とかが影が薄くなるやう頑張りたい、楽しいアンサンブルを創りたいと思っております。その他伴奏には、いつも私たちを助け、絵画的な情景を描き出す久邇之宣氏、ミサの心を敬虔に盛り上げる新進のオルガニスト田中久恵さんをお願

いしております。どうぞごゆっくりお聞きください。

なお本年11月18日に小田原男声の主催・小田原を中心としたいくつかの合唱団の共催で、ヘンデルの「メサイア」を演奏することになっております。どうぞご期待下さい。

小田原男声合唱団 団長 江川卓男

第七回定期演奏会に当って

福永陽一郎

今年のはじめ、「小田原男声・日本の男声合唱曲をうたう」という演奏会をやり、一応の成果をおさめたと感じたとき、ようやく小田原男声合唱団も、「レパートリー」というものを持っていると言えるようになったのかなあ、と話し合ったものです。そのレパートリーというのが「月光とピエロ」と「枯木と太陽の歌」と「雨」だったので、これだけでも、本来の意味でレパートリーと言えるところ、団体として一人前だと自認してもよいのではないか、などとも思いました。すくなくとも、合唱団として見えてきた、と言ってもいい、ような安定感を実感したのです。

しかし、言うまでもなく、ひとつの団体にあって、安定感などに安住することが許されるわけではありません。誰かさんの口を借りるまでもなく、合唱団のような集合体においては、とっくの昔からいつまでも「不確実性の時代」であつたので、今更ではないし、今後とも変るはずもないのです。今年の定演には“ゆとり”をもってゆけるかなあ、という楽天的な期待もむなしく、練習を重ねるに従って焦りも増殖する日々です。たゞ、その焦りの中に、去年までと同じでない感触があり、それだけ成長しているのだという答えを、ステージの上に出したいものだと切に願っているのですが。

“お国の自慢”である島田祐子さんを今宵の華として、初夏の一夜を楽しく過ぎていただければさいわい입니다。

おいわいのことば

小田原市長 中井一郎

小田原男声合唱団第7回定期演奏会おめでとうございます。

小田原市内には、数多くの文化団体があり、それらの団体は、地域文化・芸術の向上のため活躍しています。合唱の分野は、団体が特に多く、老若男女各層にわたり、その層の厚さを誇っています。十二の合唱団によって小田原地区合唱連盟が組織されていますが、小田原男声合唱団はその中心的な存在となっています。

人間は古来から、喜怒哀楽の表現の一つとして歌をつくり、歌ってききました。そして多くの人が集り、グループを作り合唱するようになった時、その歌声は美しいハーモニーとなって流れ、聴き手と歌い手に、より深い感動を与えるようになることを人は知ったと思います。合唱は一人一人が、それぞれのパートをまもらないと全体としての調和は保たれません。つまり和が大切だと思えます。こうした和をしっかりと保ち、小田原男声合唱団は着実に歩んでこられたと思います。

このたびは、中央の音楽界で幅広くご活躍されている小田原出身の島田祐子さんをゲストに招かれると聞き、楽しみにしております。

今回の定期演奏会の成功と小田原男声合唱団の今後の発展をお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。

夢と熱気の小田原男声へ

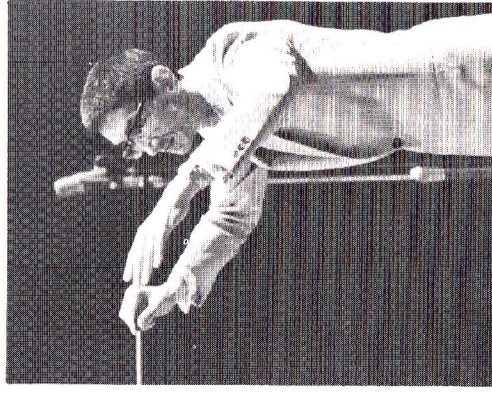
東海メールクワイアー 都築義高

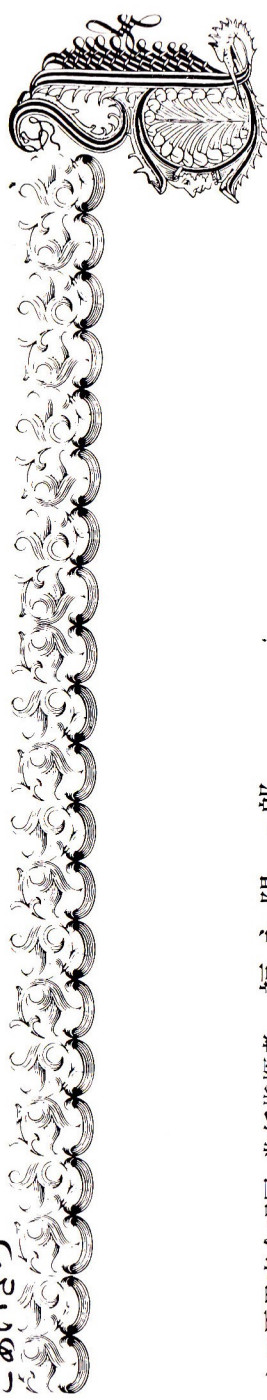
もう第7回にもなるのですね。本当におめでとうでございます。こんなに生きるのがむづかしい世の中で、第一線で働く男達が集って、音楽するなんて、素晴らしいことじゃありませんか。お互いにかんばりましょう。

私達、東海メールは昨年11月に名古屋へ小田原男声をお迎えして、御一語に演奏会を持ちました。とても楽しい会でした。来年は小田原へ招んでいただけそうで今からとても楽しみです。

福永先生にはこの5月私共の定期に密演していただきありがとうございます。

今夜の曲目はとてもおいしいものばかり、正に男声合唱の懂れの曲、それに島田祐子さんが聞けるのも、うれしい限り。ラッキーセブンを迎えた小田原男声が、暖い聴衆のみなさんの拍手に包まれた胸のときめきが、こちらにも伝ってくるようです。私達も、素晴らしい友だちに熱い拍手を心から送ります。





小田原男声合唱団 常任指揮者 福永陽一郎

福永さんの仕事が演奏だけでなく意外と知られていない。音楽之友社版の標準音楽辞典で見ると、ちやんと著述家としても紹介されている。5月末〈演奏家時代〉という166ページのエッセイを紀伊國屋書店から世に送って、福永さんは目下欣びでいっぱいなのだ。氏の演奏に関する哲学を世に問うたからだ。さてクレッチマーの“体型と精神型の相関”などという荒っぽい学説のために福永さんのような細身の人の精神構造は誤解されやすい。まず氏の時間と使い方は選挙まえの国会議員が顔負けする。腕と胸背部の筋肉は脚力と共にどんな長いオペラでも棒が振れるように発達しており、旧制高校的不潔から純培養的清潔まで、といった各種清濁併含可能で、むしろ豪傑型の戦車である。実に楽しい指揮者なのだ。

略歴：東京音楽学院（現芸術大学）本科ピアノ科出身。井口基成。豊増昇にピアノを、近衛秀麿に作曲・指揮・管弦楽法を、M・グルリットにオペラ指揮法を学ぶ。1956年から9年間藤原歌劇団の常任指揮者として数多くのオペラを上演、本邦初演も多くオペラ界における業績は高く評価されている。

また、二期会合唱団や日本合唱協会の客演指揮、東京放送合唱団との演奏会、放送などのほか、藤沢市民交響楽団、法政大学アカデミー合唱団、同志社大学 グリークラブなどアマチュア音楽団体の指導育成にも情熱を傾け特に、全日本合唱コンクール全国大会における法政大アカデミーの3年連続金賞獲得は氏の合唱への傾倒ぶりを如実に示している。

出版、レコード録音の分野でも精力的な活動を続け、東芝レコードの「現代合唱曲シリーズ」は楽界の記録を著々と更新している。

ピアニスト 久邇之宣



久邇さんのピアノに関して紹介文は不要かも知れない。演奏の言を耳にすれば誰だっこの人の勉強ぶりがわかり、従って経歴も想像できようというものである。もはや一流の伴奏者とういうものである。もはや一流の伴奏者というだけでなく、伴奏者としての地歩も固い。そうした久邇さんの横顔は、というと極めて爽快で楽しい。彼の言詞がなだりも洒脱である。また、こういう話の一端を支えている。機智に富み、ユーモラスであり、何よりうちに自分の歌い出しの音を出されたそうである。ある女声合唱団員は伴奏の言を聞きまわっているうちに自分の歌い出しの音を出されたそうである。これは本人女声の言である。それまで当然あり得ることだ。恐縮ながら卑俗な食べ物に比喻を求めれば、煙草の仲間や煙草と空付けられたのである。久邇さんのピアノは耳盗で、彼のハートはさしめし三である。

略歴：昭和47年国立音楽大学ピアノ科卒業。クロイツァー豊子に師事、二期会研究員。東京交響楽団、国立オペラ研究所のピアニストをつとめ、民音コンクール、毎日コンクールの優勝者の伴奏をよび、オペラ合唱団の伴奏も数多く手がけており、FMリサイタル、おはようコーラスなど常連と云えるほどの活躍がある。独奏者としても、藤沢市民交響楽団と“皇帝”を協演、地歩を築いて、三原真直と、第二期会定演、以来協演している。



ソリスト 島田 祐子

略歴：東京芸術大学卒。紫田睦陸・毛利純子・ベルトラメリ能子に師事。二期会オペラ「こもり」のアーデレでデビューの後、ウィーンに留学、帰国後も「メリー・ウィンドー」のハンナを好演するなど、オペレッタの分野での活躍は目ざましい。以後、グランドオペラからロックオペラに至る幅広い活動を続け、ラジオ・TVの出演は勿論、「メルヘンを歌う」「おかあさんを歌う」など吹込LPも多い。音楽界の新しい担い手として期待を一身に集めている。小田原出身の高度なテクニクを持つコロラトゥーラソプラノ。

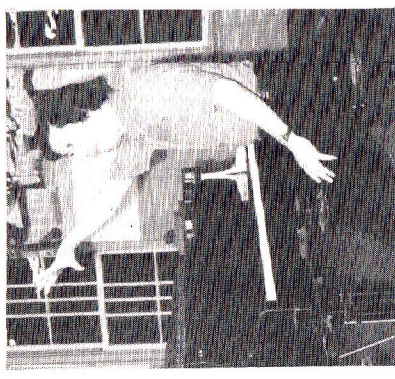


オルガニスト 田中 久恵

略歴：1976年東京芸術大学音楽学部オルガン科卒。1978年同大学院オルガン科修了。秋元道雄・島田麗子両氏に師事。東京ソリステス特別演奏会、オルガン新人演奏会オルガンジョイントリサイタル、大森めぐみ教会オルガン連続会などに出演。その他オケケストラや合唱団との協演は数多い。現在、成美学園オルガニストとして活躍している。

小田原男声合唱団 ヴォイストレーナー 大久保 昭男

勉強や練習ごとの基礎とは、なべて退屈で脱落したくなることが多い。しかし大久保さんの発声練習はアツという間に時間がたっており、しかもはじめ出なかった音が1・2時間後には出ていくから楽しい。おなかをよじる程のおかしい名文句、珍表現で綴られる練習なので印象深く忘れにくい。巧みなこの指導技術は勿論、氏の人柄と広い知識や経験との函数である。“誰！調焼きをノドにつめたみたい”“マエストロズと言ったのに土管みたいな音出して！、悪い発声には容赦なく大久保彦左右衛門式の治療が加えられるが、その評と指示と思わず笑わないではいられないような比喩でもって思時にされてしまうのだ。うちに帰って来たところ、それが頭腦的な指導であったことに気がつくのは筆者だけであろうか。



略歴：昭和28年、東京芸術大学声楽科卒業、矢田部勤吉氏に師事。近衛秀麿指揮・青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモラレス役でデビュー。山田耕作自身の指揮するオペラ「黒船」、ドヴォルザークのオペラ「ルサルカ」等にも出演した。現在、東京芸術大学講師、昭和音楽短大教授の傍ら、松原混声、湘南市民コール、慶応ワグネル、同志社グリーナーなどのヴォイストレーナーをつとめ、小田原男声でも創立以来、指導にあたっている。



プログラム

I Messe in G-dur D-167 F.Schubert

ミサ曲ト長調（男声版）

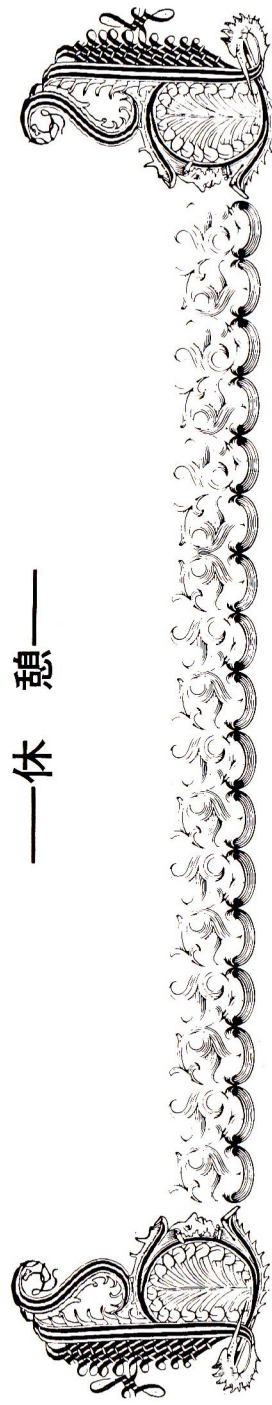
Kyrie	主あわれみ給え
Gloria	栄光の讃歌
Credo	我は信ず
Sanktus	聖なるかな
Benedictus	讃むべきかな
Agnus Dei	神の小羊

II 海の構図

- 1 海と蝶
- 2 あ海女礼讃
- 3 かもめの歌
- 4 神話の巨人

小中福
林田永
純喜陽一郎
詞曲編曲

——休憩——





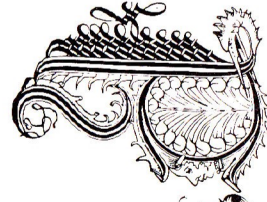
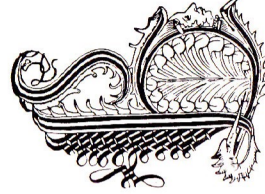
III Zigeunerlieder ジプシーの歌

Brahms op.103
福永陽一郎 編曲

- 1 He! Zigeuner!
おお、ジプシーよ
- 2 Hochgetürmte Lima-flut
波だつりマ
- 3 Wisst ihr, wann mein Kindchen
ごぞんじですか
- 4 Ljber Gott, du weisst
神様、あなたは知っておいでだ
- 5 Brauer Bursche fuhr zum Tanze
日焼けした若者が踊りに行く
- 6 Rosjein dreie in der Reihe
三つの赤いばらが
- 7 Kommt dir manchmal in den Sinn
聖なる誓い
- 8 Rote Abend wolken ziehn
赤い夕焼け雲

IV ミュージカル名曲集

- Serenade
「学生王子」のセレナード
- Hollo, Dolly
「ハロードリリー」
- Indian Love Call
「インディアン ラヴ コール」
- Ol'man River
「オールマン リヴァー」
- Sigmund Romberg
E. Lowrence 編
- Jerry Herman
福永陽一郎 編
- Rudolf Frimul
北村協一 編
- Jerome Kern
福永陽一郎 編



◆曲目解説◆

福永陽一郎

シューベルト ミサ曲 ト長調 D167

シューベルトのミサには二つの系列がある。ひとつは、男声合唱への編曲によって日本でも五十年もの昔からよく知られているドイツ語のミサ《ミサの奉獻聖祭用の声楽曲と主の祈り》通称「ドイツ・ミサ」D872》に代表されるルーテル派プロテスタント教会のためのものであり、もうひとつは、オーストリーの伝統的宗教であるカトリック教会のためのラテン語のミサ曲である。

ラテン語のミサ曲は、全部で六曲ある。そのうち第5番変イ長調・D678と第6番変ホ長調・D950は規模の大きい重要な作品であるが、第1番から第4番までは、すべて1814年から1816年までに書かれており、つまり、シューベルトが17歳から19歳までの作曲だということである。これらの十代のシューベルトによって書かれたミサ曲は、規模の上では大きくなく、精神的に深い感動をもたらす音楽というのでもないが、その愛すべき魅力に満ちた楽想によって、これらがまぎれもない天才の仕事であることが立証されていることを、すべての人が認めるに違いない。

シューベルトは、十分に音楽的な家庭環境に育った。父親は小学校の校長であった。当時のオーストリーの小学校長は皆案に熟達していなければならなかった。シューベルトやその兄たちは、幼少の時から音楽の手ほどきを受け、シューベルト自身はピアノを兄から、弦楽器奏法を父から教わった。そしてそれは彼が七歳になる以前のことであったのだ。（シューベルトの初期の弦楽四重奏曲はすべて、ホム・パーティエで家族だけで演奏されたものである）

シューベルトの父は、また、カトリック信者としても教会に対する強い忠誠心を持った人だった。そして、シューベルトの音楽教育が、家族の中だけでは不十分であると気づいた賢明な父親は、シューベルトが七歳のとき、リヒテンタール教会の合唱長（聖歌隊指揮者）ミヒャエル・ホルツァーのもとで作曲法を学ばせた。シューベルトのミサ曲第4番ハ長調D452は、師のホルツァーに敬呈されている。そしてホルツァーの言葉としては、「私が何か教えようとする、いつもフランツはそれをすらすらと知っているように見えた。本当のところ、私は彼に少しも教えたのではなく、たゞ彼と一諾に音楽を楽しんだのである」というのが残っている。

十一歳になると、シューベルトは帝室王室楽団の合唱隊（現在のウィーン少年合唱団の前身）の一員となるために神学校に入り、ジェズイットのパリアスト派の修道士たちに指導され、さらに宮廷音楽監督アントニオ・サリエリのもとで、ウィーンの大聖堂であるシュテファン教会での礼拝儀式での合唱児童となった。

少年シューベルトがうたったミサ曲は、どのようなものであったのだろうか。当時のウィーンでは、まだパレストリナなどの「ア・カペラ・ミサ」は知られておらず、おこなわれていたミサ曲は、のちに十九世紀になって“世俗的・オペラの”だとして非難されるようになっていった十八世紀のオーストリア様式（ヨーゼフ時代式）であった。つまりオーストリア、下オーストリア、ホヘミヤ、サルツブルグの大小の楽匠たちのミサ曲、奉獻語、晩課、讃美歌であった。ヨーゼフ・アイブラー、アントン・ディン・ディン、ホルツァーやモーツァルトの「レクイエム」を完成したのミサ曲、それにモーツァルト、クサーフェル・ジュスマイヤーなどの今では忘れられた人の作や、イタリイから来たルイジ・ケルビーニ、それにモーツァルト父子（レオポルドとヴォルフガング）ハイデルン兄弟（ヨーゼフとミヒャエル）といった大家の作品である。シューベルトは中でも、ミヒャエル・モーツァルトの軽快で立派な3番以上のミサ曲を尊敬していたらしい。1825年の夏にザルツブルグを訪れたシューベルトは、モーツァルトの生家や住居でなく、ミヒャエル・ハイデルンの墓をたずねている。

シューベルトのミサ曲を判断し理解するためには、このような時代背景を知らなければならぬ。ジョスカン・デ・プレからパレストリナに至る「ア・カペラ・ミサ」やベートーヴェン以後の荘大な様式から見れば、シューベルト自身が親しんだ教会音楽は、軽く小さく、親しみ易い故にかえって宗教色の稀薄さが問われるような音楽だが、シューベルト自身が親しんだ教会音楽はそのような様式でしかない故に、そのような曲を書くことが時代の要請であったのだ。

四つの“小さい”ミサ曲は、すべてシューベルトの故郷、ウィーン郊外のリヒテンタールの教会で、実際に使用された。中でも、第2番ト長調D167は、音楽学者のグロトワやアインシュタインによって“傑作”であり“非凡な才能の証明である”と称賛された、四つの中でも最も有名なミサ曲となった。

シューベルトは、このト長調ミサ曲を一週間以内に書きあげた。1851年の3月2日に書きはじめ、3月7日に書き終えたのである。そのとき彼は十八歳であった。十八歳の音楽家が作曲したのもとして、トップにランクされる作品だとも言われている。

シューベルトのミサ曲には、典礼文の脱落がある。前には、それは、この作曲家にありがちな不注意によるミスだとされてきた。しかし、ミサ曲の全6曲のすべてにおいて「クレド（使徒信条）」の中の『一にして聖、公、使徒伝来なる教会を信ず』という一段落が欠けているのは偶然や不注意ではなく、シューベルトの意志が強はたらいていると見ることが正しいと近來の学説は言っている。

このミサ曲は、かつて1846年に、つまりシューベルトの死後十八年たった頃、プラハのホルガニストで作曲家であったロバート・フェウラーという男によって、“自作”として出版されたことがあった。当時、シューベルトの兄のフェルディナントが存命中で、ただちにその虚偽を正すために行動をおこした。フェウラーのスコアは、シューベルトの手稿と全く一致したために——フェルディナント・シューベルトは『AからZまで同一だ』という手記を残している——出版社のティアーベリは、正しいタイプルによって、このミサ曲を出版した。ロバート・フェウラーの名はウォルター・ダームの「シューベルト伝」の中に、自身の罪の故に記録されている。

シューベルトの第2番ミサの男声版は、ヴィリイ・トラップの編曲で、アウグスブルグのアントン・ペーム社から出版されている。今回は、多少の修正がなされた上で演奏される。

男声合唱の深い響

石井 歎 作曲 中村千栄子 作詩	ソプラノと男声合唱のためのカンタータ 明日への足音	¥450	三善 晃 作曲 三好達治 作詩	男声合唱のための 玉孫不痛	¥550
間宮芳生 作曲	合唱のためのコンポジション 第6番 男声合唱のためのコンポジション	¥400	森脇憲三 作曲 薄田純一郎 作詩	男声合唱のためのレクイエム 碑（いしづみ）	¥550
三木 稔 作曲 小田切清光 作詩	男声合唱と打楽器のための もぐらの物語	¥850	森脇憲三 作曲 持田勝徳 作詩	男声四部合唱曲 はじめてに青い海があった	¥500

「海の構図」の男声合唱版について

合唱組曲「海の構図」は、NHKの委嘱により、1961年に作曲されたもので「現代音楽・日本曲集」の時間に、田中信昭指揮の東京混声合唱団（ピアノ・田中瑤子）によって放送初演された。いうまでもなく混声合唱曲である。初演後しばらくの間、人々の視野にはいらないまま、数年が過ぎ、同じ中田喜作曲の混声合唱組曲「都会」が、1966年の発表直後に出版され好評を呼び出したのと対照的な経過をたどった作品である。この組曲の第4曲「神話の巨人」をうたった池田昭良指揮のアルベルネ・ユーンゲントコールがコンクールで優勝してから、人々の要望が高まり、1968年ようやく出版のはこびとなった。

成功作「都会」にくらべると、内容的には詩とよく結びついた音型が美しく、またたくましく提出されているにもかかわらず、混声合唱の機能の生かしかたに、いくつかの問題点が散見されない事実是否定できえない。受けるものと同じ効果で、現実の音として発揮されたいという結果を生んだものと思われ。

初演されても、すぐに人気を得られなかった。むしろ瞬間的に、この音楽は、男声合唱を音素材としたほうが、より大きくその良さを発揮するのではないかと直感した。その後たまたま、混声合唱団でこの曲を指揮する経験を持ったとき、その考えは確信となり、作曲者の許可を得て、男声合唱に編曲する計画を練ったのである。

1970年8月に一度完成された男声合唱用の編曲は、第19回東西四大学合唱音楽会の合同演奏で、北村協一指揮によって演奏された。更に改訂の手が加えられて、第22回東西大学の会の合同演奏で、私の指揮で再演され好評をばくし、このあと各地の大学・高校の合唱団などで好んでうたわれたようになった。広島県の崇徳学院高校のグラブは、この編曲をうたった、全日本合唱コンクールの金賞を獲得した。

以上のようないきさきさきつて「海の構図」の男声版は次第に全国に浸透していったが、楽譜は未出版で、不便でもあり、コピーを重ねるうちのミスも発生し、困惑していたところ、作曲者の推奨もあって、1977年6月に正式に出版されることになった。ごく些細な部分だが修正があり、本日は、この正式に出版された版による演奏である。

この曲の中で私がもっとも好きな部分は「神話の巨人」の coda というべき部分で、まさに「海」というもののイメージを確実にとらえた音楽は、台風一過の夕映えの光景を眼底にありありとうつつし出すクライマックスをきき、その見事さは、中田喜直が書いたもつとも華麗な一頁と断言できると思う。私は、演奏するたびに、その部分の表出に全能力をかける。

追記。

私は、混声合唱曲の「海の構図」の価値を否定するものではない。技術的な面が解決されれば、この曲のすぐれた詩と音楽は、混声合唱によって、更に一般的に普及されてしかるべきだと再認識を深めており、実際に、東芝EMIの「現代合唱曲シリーズ」の一枚に加え（演奏は合唱団・京都エコー）法政大学アカデミー合唱団のステージにかけたことでもある。混声・男声、両方の版での愛唱を大いに期待しているところである。

ブラームス ジブシーの歌

ブラームスの時代までのドイツの世俗合唱曲について

ルネッサンス以後の合唱音楽が、ローマ・カトリックの典礼と結びつき、ミサ曲やモテットとして発達してきたことは、誰でもが知っているところである。と同時に、宗教的合唱曲の作曲家は、イタリアのマドリガレ、イギリスのマドリガルといった世俗合唱曲を多く作曲したし、同じ時代——16世紀から17世紀にかけて——フランスには、シアンソンという世俗合唱曲が発達していた。

しかし、ドイツでは、19世紀、ロマン派の時代にはいるまで、一般の民衆がうたうための合唱曲といったものは、決して多くはつくられなかった。ひとつには、ドイツが、音楽的には、イタリアに対して後進国であったこと、つまり、イタリアからもたらされた音楽は、すでに、機能的に進歩しており、技術的に、一般のアマチュアの参加を拒否するくらい高度なものになっていったからである。ハイドンやモーツァルト、それにベートーヴェンといった古典派の大家たちは、宗教音楽のほかには、いくつかの演奏会用や祝祭用の合唱曲を書いているが、あとは、ごく少数のカノンや小品を残しているに過ぎない。

19世紀になると、ドイツは、民族的個性の自覚から、ロマン主義文化が開花し、いわゆるドイツのピーター・マラー時代といわれる時期にはいつてゆく、小市民階級は、一応の生活の安定と政治的不安とのギャップの間で芸術文化活動に人生の目的を見出すようになり、市民のレベルの音楽のたのしみとして、アマチュアの合唱活動が、急激に隆盛してゆくようになった。そういう世相の中で、シュペルトやメンデルスゾーン、シューマンといった大作曲家が、実用のため、またマーケットの需要にこたえて、世俗合唱曲を多く作曲し、また、ツェルター、クロイツァー、ジルヒャー、マルシュナー、レヴェヴェルナー、フランツ・アプト、ヘーガーといった、合唱曲専門の指導者兼作曲家が輩出した。

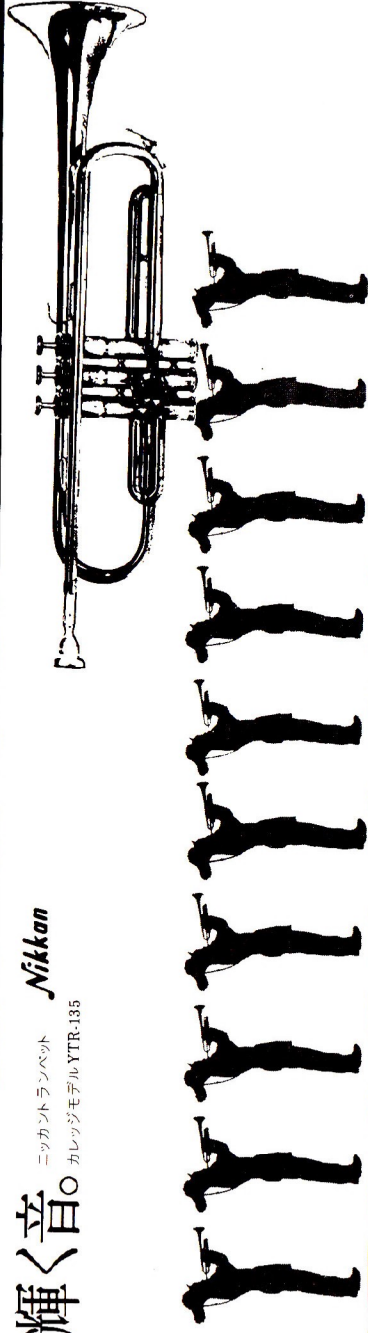
ブラームスのように、当時のウィーンで、ワグネルズムの対極として、最高の尊敬を集めていた大作作曲家も、時代の要求にこたえざるを得なかったし、ヨハン・シュトラウスのような流行児でさえ、合唱用のワルツを書くといった有様であった。ドイツでの合唱運動は、北方でのリーダー・ターフェル・フェラインや南部のリーダー・クランツとして隆盛していったが、一方、カトリック教会を基盤とするツェルター運動は、非典礼的な合唱音楽の追放を策し、リストなどは、その運動に賛同して、良くも悪くも保守性を発揮した。ブラームスは、反カトリックの宗教的立場からも、民衆の側に立った合唱音楽活動をするようになった。

輝く音。

ニッカントランペット

Nikkon

カレッジモデル YTR-135



ブラームスの合唱曲

ヨハネス・ブラームス（1833—1897）は、ロマン派音楽の流れの中で、様式的に古典派の伝統を継承しようとした作曲家で、交響曲、協奏曲、室内楽曲、歌曲など、オペラ以外の分野で幾多の傑作を残した大家でもあることはあらためて喋々する必要もないだろう。彼は、合唱音楽の分野でも、音楽史上、次が大きい重要な作品も、いくつも書いた。

ブラームスの合唱曲といえども、まず、宗教的な大作「ドイツ鎮魂歌」をあげるのが普通であるだろうが、前述のとおり、カトリックの典礼とは全く無関係だったこともあって、むしろ、市民の合唱運動の要請に従った世俗合唱が、量的にも圧倒的に多いのである。よく知られた名曲として「運命の歌」（作品54）「アルト・ラプンディ」（作品53）「ネニエ」（作品82）などがあり、作品目録を引くと、さらに多数の合唱曲が見出される。また「愛の歌」（作品52）「新しい愛の歌」（作品65）「ジプシーの歌」（作品103）などは、もとは四重唱曲として作曲されたものであり、「お、美しい夜」などをふくむ多数の四重唱曲と同様、初演のとき、すでに室内合唱団にうたわれたものでも、元来、四重唱曲である）として扱われている。（シュエマンの、有名な「流浪の民」も、元来、四重唱曲である）

そのほかにも、ドイツ民謡の編曲や、カノンやロマンスといった小品など、一口にはあげきれないほどの合唱作品を、ブラームスは書き残したのである。

ピアノ伴奏によるソプラノ、アルト、テノール、バスの四重唱のための全部で十一曲からなる歌曲集である。ブラームスはのちにこのうち八曲を独唱用に編曲した。また、作品112の六つの四重唱曲中の後半四曲もまた「ジプシーの歌」の題名を持ち、同様の音楽的性質を見せている。しかし、普通「ジプシーの歌」といえば、この作品103の十一曲を指している。旧来（ドイツ語圏ヨーロッパでも）混声合唱でうたわれたことが多い。

ブラームスな、ハンガリー・ジプシーの音楽に対する強い嗜好を持っていた。ピアノ連弾のために作曲され、のちにオーストラ用に編曲された「ハンガリー舞曲」全二巻は有名であるが、それらが要するにジプシー音楽の“編曲”であるのに対して、「ジプシーの歌」は、ハンガリーと民謡の歌詞をドイツ語に訳したものに作曲した“オリジナル”である点が異なっている。ジプシー風である以上、すべて四分の二拍子の楽曲であるが、リズムや音楽の雰囲気は一曲一曲、性格を異にしており、親しみやすくて色彩が豊かであると同時に、変化に富み、聴く者を飽きさせない。

1887年夏から12月にかけて作曲され、私的な初演は、完成直後の冬、ブラームスの友人宅のサロン・コンサートでおこなわれた。そのときテノールのパートをうたったグスタフ・フルサーという歌手が素晴らしい人で、シュペルトの歌曲のすぐれた歌い手であり、ブラームスの歌曲の普及にも力を尽した人であったので、この曲でテノールの声部がとくに重視されているのは、この人の声を生かそうとしたブラームスの意図があったと思われる。

男声合唱用の編曲は、すでに全十一曲の版がドイツ・オーストリアで出版されているが、ここでは、独唱用のと同じ八曲を、福永陽一郎が煙中長輔のために編曲した版が使用される。

ミュージカル・アルバム

1866年9月12日、ニューヨークはブロードウェイのニブロス・ガーデン劇場で、チャールズ・M・バリヤーが音楽をつけた「アラック・クルック」というスペクタクル・ドラマが初日を開けて以来、百二十年もの時を経て、はじめはロンドンで流行していたオペレッタとヴエードヴィル・シヨウを結合したものにすぎなかった“ミュージカル”は、何干というヒット作品を生み、そして、その中からまた何十曲という永遠のスタンダード・ナンバーを遺産として今日に残してきたのである。今宵ステージに乗せるのは、ここ数年のヒット・ミュージカルや、ミュージカルや話題作をコンサート形式で舞台に乗せようというのではなく、そうしてここ数年の長い歴史が生み出したスタンダード・ナンバーの、またその代表的な名曲を男声合唱の重厚なハーモニーに乗せ、スターの華麗なる歌声と共に聴いていただきたいという趣向である。

学生王子のセレナーテ

ウィーン生れのジグムンド・ロンバークは、ブロードウェイでも、ウィーンのオペレッタを更に甘くしたようなミュージカルで成功した作曲家である。シュペルトの恋をテーマにした「プロッサム・タイム」やモロッコの盗賊を主人公にした「デザート・ソング」大西洋の海賊船の冒険譚「ニュー・ムーン」など、結局はアメリカ人気質に迎合した気の利いたオペレッタに過ぎない。ロンバークの作品でもっとも成功したのは戯曲「アルト・ハイデルベルヒ」をミュージカル化した「学生王子」で、その十六世紀風ロマンスイジシズムが作曲者の気質にピッタリだったからだとと思われる。1924年初演。続演608回。「セレナーテ」は、主人公のカルルスベルグ王国の若い皇太子が宿屋の娘に恋をしてうたう甘い愛の歌で、学生たちの男声合唱をとってもなっていた。

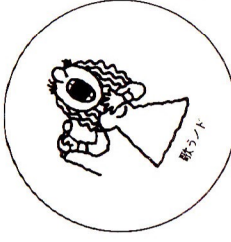
ハロー・ドリー

ソートン・ワイルダナーの戯曲「結婚仲介人」を原作にとり、ジェリー・ハーマンが作詞作曲したミュージカルで「ウエスト・サイド物語」より後の作品なのに、アメリカの古き良き時代を懐古した逆行的作品として、パーンスタインなどを数かじめたというが、そのあと直ぐにロック・オペラの時代が到来するのである。つまり、嵐の前の太平楽だったわけだ。1964年初演。続演2477回。

主題歌「ハロー・ドリー」は、レストランのハーモニー・ソングとして単独でヒットし、中でもルイ・アームストロングの掛け合いでうたわれたものだが、早くからポピュラー・ソングとして単独でヒットし、中でもルイ・アームストロングのレコードはベスト・セラーになった。

小田原男声合唱団の皆様、定期演奏会の御成功を祈ります。

★ 明治製菓のハーブ(野草)ドロップ



『草笛の匂いがする』.....

世界各地の高原で育ったハーブ(野草)。その中から選りすぐった19種類のエキスを配合した、ノド専用のドロップです。お菓子と菓の技術をもつ明治製菓が作りしました。人工着色料・人工甘味料、防腐剤など、および人工的なものは一切使用していません。風味豊かなおいしさは、野草のエッセンスで生まれたもの。自然を求めめる時代の要望に応えて誕生した、これからのドロップです。



小缶 (100g入) ¥500
大缶 (220g入) ¥900

明治製菓株式会社 薬品部

東京都中央区京橋 2-8

インディアン・ラヴ・コール

ドイツ生れでベルリンで成功していたオペレッタの作曲家・ルドルフ・フリムルのアメリカでの成功作。カナダ北西部の山岳地帯が舞台になっており、アメリカ大陸に取材したテーマによるミュージカルの“はしり”となった。白人同志の恋物語にインディアン娘がからむロマンチックな色も、当時としては珍しかった。1924年初演。続演557回。

「インディアン・ラヴ・コール」は、ミュージカル自身が忘れ去られた後も、スタンダード・ナンバード・ナンバードとして、また懐かしメロディーとしてソプラノ歌手に愛唱されて来た。これも、男声合唱によって来た。これも、男声合唱によって来た。

オール・マン・リヴアー

1927年に初演され572回続演されたミュージカル「ショー・ボート」は、史上最大の芸術的成果をおさめた作品と言われている。

アメリカ南部を舞台にし、深刻な人種問題や不幸な結婚といった、およそミュージカルに不向きだと考えられていた素材を、完璧な構成とときわめて芸術性の高い音楽によって、ブロードウェイでの成功をかち得たのであった。ミュージカルの世界に現実的な物語と社会的な背景をはじめ初めて持ちこんで、新しい次元を切り開いた作品として、今日なお高く評価され、最近でも、1971年に、ロンドンでクレオ・レーンを主演にした上演がロング・ヒットした。古典的名作ミュージカルである。1927年初演。続演572回。

「オール・マン・リヴアー」は、ミシシッピの大きな流れに人生をうたう黒人霊歌風な歌で、第二次映画化のとき、ポール・ロブスンがうたって、永遠の名唱と謳われた。その後も、第三次映画化のときのウイリアム・ウォード・フィールド、ロンドン公演のトーマス・カーライルなど、名唱が多い。

海の構図

海よ、海よ、
あなたの、その手もり歌をつづけてください。

小林 純一

I 海と蝶

海よ、海よ、
あなたの表情は、
どういふ時が、ほんとうなのですか。
きょうの、その、
くすぐったそうな表情！
空の青さが 色あせたからといって、
あなたのせいではないでしょう、
空の方から降りこんだのです。

風が青色を失ったからといって、
それも あなたのせいではない、
じぶんで 波間に消えたのです。

海よ、海よ、
あなたの表情が、しかし、
きょうのような日に、
地球のどこかで、
小さな、黄色い蝶が一匹、
こっそり生まれているのです。

II 海女礼讃

人魚の姫にたとえられて、
海の少女は くつくと笑ったが、
瞬間、ほこちびた口もとに真珠が輝き、
黒髪を 海草の匂いがつつんだ。
そうして、まぼろしのように海底に潜えて
いった。
ああ、人魚でなかったら
なんだというのだろう、
あの美しい海の少女は。

また、飛天の像にたとえられて、
海の少女は くつくと笑ったが、
瞬間、口もとをもちめる息が笛の音となり、
はだえを七色の虹がつつんだ。
そうして、天翔る姿のままに海底に潜えて
いった。
ああ、飛天の像でなかったら
なんだというのだろう、
あの美しい海の少女は。

III かもめの歌

かもめ、かもめ、
ひもすがら、
なみの まにまに、まう かもめ、
かなしき さがよ、
ひもすがら、
うねりのまにまに、まう かもめ、
ゆらゆらと、ただ、ゆらゆらと。
かもめ、かもめ、
しおさいの、
うたに あわせて、まう かもめ、
かなしき さがよ、
しおさいの、
うたがまにまに、まう かもめ、
ゆらゆらと、ただ、ゆらゆらと。

IV 神話の巨人

その頃、
海は孤独な巨人だった。
鉛色の頭髮をかきむしり、
狂暴な叫び声をあげて、
のたうちまわってばかりいた。
うおーん、どどどーん、
うおーん、さざさざーん。
かもめ、かもめ、
ひもすがら、
なみの まにまに、まう かもめ、
かなしき さがよ、
ひもすがら、
うねりのまにまに、まう かもめ、
ゆらゆらと、ただ、ゆらゆらと。
かもめ、かもめ、
しおさいの、
うたに あわせて、まう かもめ、
かなしき さがよ、
しおさいの、
うたがまにまに、まう かもめ、
ゆらゆらと、ただ、ゆらゆらと。

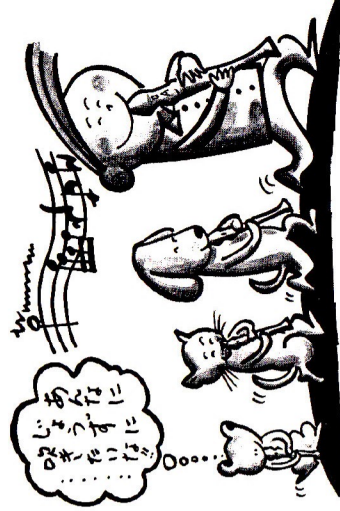
竜が、暗い穴へ登っていった。

神にも、サタンにも、
巨人の気むすかしさを
どうすることもできなかった。
今でも ときどき、
海は孤独な昔にかえる。
鉛色の頭髮をかきむしり、
狂暴な叫び声をあげて、
ただ、のたうちまわる。
うおーん、どどどーん、
うおーん、さざさざーん。

そんな時、
人間はただ、
巨人の腕れはてで隠入るのを待つしかない。

ああ、
神話の巨人は今、
何を考えているのだろう。
夕焼けに映えて、
少女のように無心に赤いリボンをはくがえ
しているが……。

……ういん、ういん、るいん、るいん、
ういん、ういん、るいん、るいん、



AULOS® RECORDERS

品質抜群、確かな商品

▲トヤマ楽器製造株式会社

本社 〒174 東京都板橋区大原町41番地 TEL. 03(960)8301(代表)
工場 〒364 埼玉県北本市宮内1262番地 TEL. 0485(41)5451(代表)

Zigeunerlieder. ジプシーの歌

1. He, Zigeuner · おお、ジプシーよ

He, Zigeuner, greife in die Saiten ein!
Spiel' das Lied vom ungetreuen Mägdelein!
Lass die Saiten weinen, Klagen, traurig bange,
Bis die heisse Thräne netzet diese Wange

それ！ジプシーよ絃を弾け！
不実な乙女の歌を奏でよ！
絃を泣かせ、嘆かせ、悲しく震わせよ
熱き涙がこの頬を濡らすまで

2. Hochgetürmte Rimaflut 波だつりマ

Hochgetürmte Rimafluth, wie bist du so trüb'
An dem Ufer klag' ich laut nach dir, mein Lieb!
Wellen fliehen, Wellen strömen, rauschen an den
Strand heran zu mir,
An dem Rimaufer lasst mich ewig weinen nach ihr!

波高きリマの流れ、なせにかくも濁れる
恋せる人を嘆き叫げば
波は逃げ、波は流れ、岸辺の方へと
ざわめき立てる、
リマの岸辺に永久に嘆かせよ、恋せる人を求めて！

3. Wisst ihr, wann mein Kindchen ござんじですか

Wisst ihr, wann mein Kindchen am allerschönsten ist?
Wenn ihr süßes Mündchen scherzt und lacht und küsst
Mägdelein, du bist mein, inniglich küß' ich dich
Dich erschuf der liebe Himmel einzing nur für mich!

僕の恋人が一番美しくなる時をご存知？
甘く、愛くるしい口許がお茶目で、笑い、接吻する時
乙女よ、お前は僕のもの、心をこめて接吻しよう
神様は僕だけのために、お前を創り給うた！

Wisst ihr, wann mein Liebster am besten mir gefällt?
Wenn in seinen Armen er mich umschlungen hält.
Schätzlein, du bist mein, inniglich küß' ich dich,
Dich erschuf der liebe Himmel einzing nur für mich!

私の恋人が一番素敵になる時をご存知？
私を腕に抱きしめる時
私の宝よ、心をこめて接吻しましょう
神様は私だけのために、あなたを創り給うた！

4. Lieber Gott, du weisst 神様、あなたは知っておいでだ

Lieber Gott, du weisst, wie oft bereut ich hab'
Dass ich meinem Liebsten einst ein Küsschen gab
Herz gebot, dass ich ihn küssen muss,
Denk so lang' ich leb' an diesen ersten Kuss.
Lieber Gott, du weisst, wie oft in stiller Nacht
Ich in Lust und Leid an meinen Schatz gedacht.
Lieb' ist süß, wenn bitter auch die Reu'
Armes Herze bleibt ihm ewig, ewig treu.

愛する神様ご存知ですか、恋する人とした接吻を
どれほど後悔していることか
接吻しなくちゃだめですと、この心が言いました
生ある限り思います、あの初めての接吻を
愛する神様ご存知ですか、悲喜こもごもに恋する人を
どんなに度々思ったことか
たとえ悔いは苦くとも、恋することの甘き味
哀れな心はいつまでも、あの人だけを思います

5. Brauner Bursche führt zum Tänze 日焼けした若者が踊りに行く

Brauner Bursche führt zum Tanze
Sein blauäugig schönes Kind,
Schlägt die Sporen keck zusammen,
Czardas Melodie beginnt,
Küsst und herzt sein süßes Täubchen,
Dreht sie, führt sie, jauchzt und springt;
Wirft drei blanke Silbergulden
Auf das Cymbal, dass es klingt.

日焼けした若者が踊りに誘う
青い瞳の美しい娘を、
拍車を強く打ち鳴らしや
チャルダッシュの調べが起る、
可愛い小鳩をキスして抱いて
踊り廻ってヤッホーと跳ねる、
銀貨を三つシンバルに投げりや
シンバルが鳴るよ

6. Röslein dreie in der Reihe 三つの赤いばらが

Röslein dreie in der Reihe blüh'n so roth,
Dass der Bursch zum Mäd'el geht, ist kein Verbot!
Lieber Gott, wenn das verboten wär',
Ständ' die schöne, weite Welt schon längst nicht mehr
Ledig bleiben Sünde wär'!

バラが三輪並んで、真赤に咲いた、
だからあの娘のところに行きます！
神様、そんなことができないならば
広いきれいな世界も失せて
罪が独身で残るでしょう！

Schönstes Städtchen in Alföld ist Ketschkemet,
Dort giebt es gar viele Mädchen schmuck und nett!
Freunde, sucht euch dort ein Bräutchen aus,
Freit um ihre Hand und gründet euer Haus,
Freudenbecher leeret aus!

アルフェルトで一番美しい町はケツクケメット、
きれいな可愛い乙女が沢山います！
友よ、そこで花嫁を見つげ
想いを打ち明け、愛の巢を、
そして歓びの乾益を！

7. Kommt dir manchmal in den Sinn 聖なる誓い

Kommt dir manchmal in den Sinn, mein süßes Lieb,
Was du einst mit heil'gem Eide mir gelobt?
Tausch' mich nicht, verlass mich nicht,
Du weisst nicht, wie lieb ich dich hab'
Lieb' du mich wie ich dich,
Dann strömt Gottes Huld auf dich herab!

愛しい人よ、度々思い出しますが、
いつか聖なる誓で約束したことを？
私をだまさないで、見捨てないで
あなたは私の想いをご存知ない、
愛して下さい、私が愛するようには、
そうしたら、神様のお恵みがあなたに注ぐでしょう！

8. Rote Abendwolken ziehn 赤い夕焼け雲

Rothe Abendwolken zieh'n am Firmament,
Sehnsuchtsvoll nach dir, mein Lieb, das Herz brennt;
Himmel strahlt in glüh'nder Pracht,
Und ich träum' bei Tag und Nacht,
Nur allein von dem süßen Liebchen mein.

赤い夕焼け雲が天空に棚引く
恋人よ、お前への憧れに満ちてわが心も燃える
天は壮麗に光り輝き
日ごと夜ごとに夢みる
ただひとり恋せし人のことを

1978年度オダダンカンレンダー

1月 21日 小田原市民劇場主催・小田原男声合唱団演奏会「日本の合唱歌を歌う」(小田原市民会館)

4月 2日 NHK・FM「おはようコラス」放送

5月 7日 日本の音楽家シリーズI, 山田一雄の世界「ブラームスのタペ」(藤沢市民会館)

6月 8日 第27回湘南合唱祭(平塚市民センター)

7月 8日 第7回定期演奏会(小田原市民会館) 30日 JAMCA弘前演奏会

11月 18日 「メサイア」演奏会(小田原市民会館)

12月 3日 小田原市民合唱祭(小田原市民会館)

・79 2月 12日 山田一雄の世界「マーラー千人の交響曲」(藤沢市民会館)

1977～78 演奏曲目

国伊玖磨(福永一郎陽編)「岬の墓」

黒人霊歌集／行けよモーゼ、共にパンを、古いハンマー、マリアの小さな女の子、やがて終りの日が、古典イタリア歌曲集／アマリリ麗し、太陽は昇りぬガングジスより、永遠に茂る木陰よ(ラルゴ), おおやさしい恋人よ,

ジブシイ娘を呼ぶのは誰?, 愛のよろこび,

メンデスゾーン男声合唱曲集／トルコの酒のみ唄、狩人の別れの歌、舟行、愉しき旅人,

北原白秋の詩／からたちの花、この道、かやの木山、あわて床屋(以上山田耕筈), ちんちんちどり(近衛秀麿)

子どもの四季から／海、赤とんぼ、村祭り、里の秋,

多田武彦 男声合唱組曲「雨」

大中恩 無伴奏の四つのうた(混声=合同演奏)

清水脩 男声合唱組曲「月光とピエロ」

石井敏 男声合唱組曲「枯木と太陽の歌」

中田善直(福永陽一郎編)合唱組曲「海の構図」

ブラームス アルトラップソナデ

第8回 定期演奏会.....予告

●とき 昭和54年7月7日

曲目 ①フリーメーソン・カンタータ.....(モーツァルト)

②「中勤助の詩より」.....(多田武彦)

③トステイ名歌集

④愛唱歌集

●ところ 小田原市民会館大ホール

若さあふれる男の魅力.....!

小田原男声合唱団を育てましょう。



東京田辺製薬株式会社
東京都中央区日本橋本町2-7-3
東京・大阪・名古屋・福岡・札幌・仙台・広島

トプテノール

大塚 加藤 近藤 須長 福鈴 井吉 坂育 福白
夫信男 敵男 隆昭 幸晃 治治 修雄
正治国 幸正 寛新 恵和
野野 橋家 崎藤 原野 井藤 木村 畠田 山多 高井 星

校ス校校場ムム校局ム校ム生
学ッ学学験ルル学ル学ル学
小ロ小小試イイ小薬イ小イ学
磯士町子芸士士水田フ小フ台大
大富本芦園富富花吉富桜富東
原木原野原原原塚原柄原柄原
田田田田田田田田田田田田田
小厚小秦小小平小南伊南小
野原宮北塚崎柄柄宮野柄川塚倉原原原柄野
上富二川井香三富大日富鶴関第ゆ国そ富古
秦小二山平茅南南二秦南寒平鎌小小小南秦

トバリト

足伊江遠小柏松岩下坂二関中佐
利藤川藤沢木本崎村上宮島藤
之邦男昭一茂夫吉毅恵二雄志三
裕清卓正秀和敦興治一広賢
年忠宗英誠博吉凱依
部上口沢本辺部下山口藤居
阿井坂下杉渡日中野江土

湯秦 継平 小 小 小 小 小 小 大 藤厚松
河野倉塚原原原原原磯沢木田
原野倉塚原原原原原磯沢木田
多温富花昭野岡山鉄富吉井箱法
賀泉士水昭和教本王上士樂上根療養所医
中 小 フ 小 和 外 中 小 上 フ 教 樂 所 学 学
校 校 ム 校 大 一 校 校 業 ム 育 器 師 生

昭和53年度 運営委員

団 長 (技術部長)
副 長 (国員部長)
" " (財政部長)
事業部長
備品部長
渉外部長
情報部長
副指揮者
事務局長

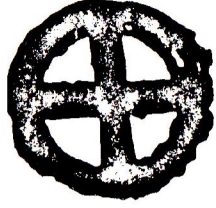
江松 下近 福下 口伊 大井
川本 村藤 井沢 部藤 塚上
卓和 興国 清正 忠彦
男夫 毅男 隆孝 陽邦 夫彦

定演実行委員

長局ン 編集 理 出督計
員務 イ プログラム 管 監
委争 テ 会場 台 演舞会

井上上 井利井 村藤 野沼 藤
福井井 福足 坪下 佐市 井近
降彦彦 降之上 毅熹 一幸男
忠忠 裕孝 興修 寛国

オダダンの心のふるさと



郷土料理の志

お茶漬・おむすび

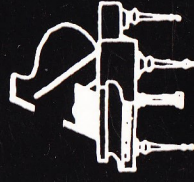
(九州出身の方ぜひ一度お越し下さい)

●小田原駅前 北本ビル (電)23-0288

手づくりの良さと

ドイッレンナーハンマ/ 6角ワイヤー使用

リスト-ピアノ



井上楽器

小田原市栄町1-13-36 (お堀端通り)

小田原男声合唱団事務局

☎046524-0515 (代)